

横須賀キャリア教育推進事業—産学官が連携

# 地元企業の社員が先生役

商工会議所を中心に市・教育委員会が連携した「横須賀キャリア教育推進事業」—「中学生」自分再発見「プロジェクト」が評判だ。総合的な学習の時間に、1年を通じた教育プログラムを組み、地元の協力企業が、社員をマイ・タウン・ティーチャー(MTT)として学校に派遣する。仕事の紹介、職場体験を終えた生徒とのグループディスカッションなど多彩なプログラムを展開し、生徒たちの職業観・勤労観の醸成につなげている。派遣された社員自身が、働く意味を見直すきっかけにも、MTT交流会も開催され、異業種交流の輪も広がっている。

企業の応援団  
が地元を支える

将来的に地域を担う人材の育成に、横須賀商工会議所・横須賀市・横須賀市教育委員会の産学官が連携して取り組んだのが「横須賀キャリア教育推進事業」。職業観を持っていないフリーターやニートの増加などの社会問題や、神奈川県内で最も人口減少が進む地域の状況への危機感が背景にある。

2008年度にスタートしたプロジェクト参加を希望する中学校の総合的な学習の時間を体系化し、1年を通して子供の職業観・勤労観の醸成を目的とした教育プログラムを実施することとした。2010年度は9校が参加した。2010年



大工さんが仕事の道具を説明(「私の仕事紹介します」で)

300社を超える地域企業が「よこすかキャリア教育応援団」として組織化されプロジェクトに参画しているのが特長だ。協力企業

実施対象学年は中学1〜2年生。年間のカリキュラムを体系化するなかで、学校ごとに異なるプログラムに応じて時間配分を行う。MTTが学校を訪れて行う教育プログラムの代表例を紹介しよう。

「若者たちがこうした体験をすることで、管理職になった時、実感を持って地域貢献ができるようになるはず」と細野さん。今夏にはMTT交流会第2回を開催する予定だ。



保険会社の若手社員がグループ討議に参加

が、学校に社員を派遣するのがマイ・タウン・ティーチャー(MTT)制度。「地域の大人はみんな子ども達の先生」というコンセプトに基づく。産学官の連携と、商工会議所がコアメンバーの役割を果たすことで、地元企業と教育現場の交流を円滑にし、生徒の職場体験事業を活性化できる効果も期待された。

注目されるのが「グループディスカッション」出会いが心を揺さぶる「プログラム」。職場体験の後、事後教育の位置付けで、様々な企業のMTTに生徒が班ごとに分かれ自分の体験を語る(写真右)。

子どもたちと話した後、教師と各社のMTTメンバーが情報交換を行う時間も設けているほか、中学生が地域社会活性化に協力するプログラムを実施している学校もある。

## 地域貢献と自分磨き

### 異業種交流の輪も広がる

ネットの細野裕さんは、地元中学校の校長OBで、早くからキャリア教育を推進してきた先達。「中学生、自分再発見プロジェクト」では、推進中学校の各校長の想い・方針をヒアリングしプログラムの作成と実現に協力する。

職場体験後に  
グループ討議

職場体験を受け入れたり、出前授業を行う例は珍しくないが、複数の企業の社員が同時に1つの学校のプログラムにかかわり、職場体験後に生徒とディスカッションの場を設定し、じっくり話し合う機会を持つという試みは稀だろう。MTTとの話を通して、自分の生活やこれからの生き方について深く考えることができる。

2010年度のMTTの派遣延べ数は247社、435人になる。こうした取組みで経済産業省の「第1回キャリア教育アワード」を受賞している。

「若者たちがこうした体験をすることで、管理職になった時、実感を持って地域貢献ができるようになるはず」と細野さん。今夏にはMTT交流会第2回を開催する予定だ。

追跡レポート